

女性の実践

林業女子！女性だからこそ

日時：平成24年9月30日（日） 10:00～12:00

講師：寺田 菜穂子（林業女子会@岐阜）

概況



林業女子！女性だからこそ

・水に関する勉強をしており、水源から森林に興味を持つようになった。森林組合に就職した後、個人事業主として独立し、現在は美濃市在住で、林業女子会@岐阜、地域林業グループ「山の駅ふくべ」事務局に所属している。

・子どもと一緒に森に入って仕事をしている。森のようちえん方式（デンマークで1950年代半ばに始まった、園舎ではなく、森の中で子どもを遊ばせる方法）で子どもを育て、子どもに健康さやたくましさを与えたいと考えている。

・女性の林業作業員数は男性のおよそ9%、そのうち家族従事者は女性全体の37%と高い割合であり、農業に従事する女性が男性の約75%であることを考えると、林業は女性の仕事の選択肢として敷居が高いことがわかる。山仕事には伐採以外にも下刈り、調査、計画立案など様々な作業があり、力仕事ではあるが、力頼みではない。チェーンソーを使いたいと考えている女性が居たことから、女子伐採班を作った。女子伐採班の目標は、「女性が自分に対しても、他人に対しても「私も山仕事ができる」と宣言できるようになること」である。女性が林業を行っていく上で大切なのは、周囲の理解と家族の支えである。林業をやりたいと考えている女性が相談できる組織があることで、女性でも林業が普通に選択肢に入る社会をつくっていきたいと考えている。

・林業女子会は京都、栃木、東京など、全国に存在している。これらの動きは、環境問題に対する意識の高さから来ている。また、自分の作業や判断がその場で結果につながる、達成感のある仕事であることが林業の魅力である。

・林業に携わっているある女性の「焦ってすぐ結果を求めたくなるけれど、目先にとらわれず、想像力をもって欲しい。誰かが育ててくれたから今の山がある」「菌磨きをするように当たり前山仕事をする時代になればいい」という言葉が印象に残っている。今後は女子作業員のネットワーク作りや、計画的な山づくりをしていきたいと考えている。

・「山の駅ふくべ」事務局としての仕事は、針葉樹の薪の販売や、美濃市のウッドスタート事業(子どもの頃から木材に親しみを抱いてもらうため、市内で生まれた子どもに木製のおもちゃを提供する事業)に板材の提供を行っている。

・目指す生き方は「野生的に生きる」ことである。自分の持つ感性を研ぎ澄まし、自然から享受し、調和して生きることを目指している。